

沖縄の街並みは、一九六二年を境に、大きく変化しました。六二年に沖縄で何が起きたのかといふと、木造住宅の着工数を、コンクリート住宅が追い抜いたのです。この年以降、沖縄では今日のようにコンクリート住宅が主流となっていきました。

この技術の進歩は、個人にとって、住宅の存在を大きく変えました。この技術によって、個人は初めて、自分のため、自分らしい住宅を、自分の思いのままに造ることが可能になったのです。逆に、木造技術しかなかった時代には、こうした個人の自由には制限がありました。構造的に弱い木造住宅を台風の猛威から守るために、石垣やフクギの生け垣など、家の外での備えを丁寧に造り、建物は重心を低く抑える、といった形式を無視することが許されなかつたのです。そうした

六年を境に、大きく変化しました。六二年に沖縄で何が起きたのかといふと、木造住宅の着工数を、コンクリート住宅が追い抜いたのです。この年以降、沖縄では今日のようにコンクリート住宅が主流となっていきました。

## 櫻ハウス

甲斐 徹郎

制約が、あの沖縄特有の伝統的民家のスタイルを生み出し、そつた住宅づくりが、調和の取れた美しい街並みをつくってきました。

コンクリート技術は、自然環境や古い因習から私たちを独立させ、自分

## 自由と環境両立図る

のライフスタイルを追求した自由な住まいづくりを可能にしました。しか

し、その個人にとってのトライアンドなどの都市問題を引き起こし、更にちは、美しい街並みを失は、「引きこもり」などの社会病理現象の温床となる

都市問題を改善するため

つて思っています。私は、こうした現代の最大の価値は、樹齢一

ス」と言います。ここで

(マーケティングコンサルタント)

地主と「櫻ハウス」の敷地との関係。互いに緑を共有価値とすることで、豊かな自然環境が形成された

に、これまでの技術の進歩を否定するつもりはありません。重要なのは、ここまで進歩した技術を

緑豊かな自然環境です。この緑は、十五世帯の家

族と、そこに隣接する地主とが協力し合うことで、残すことに成功した

もので、夏には、冷気を供給する「自然の空調装置」として機能するよう

## 住宅デザイン

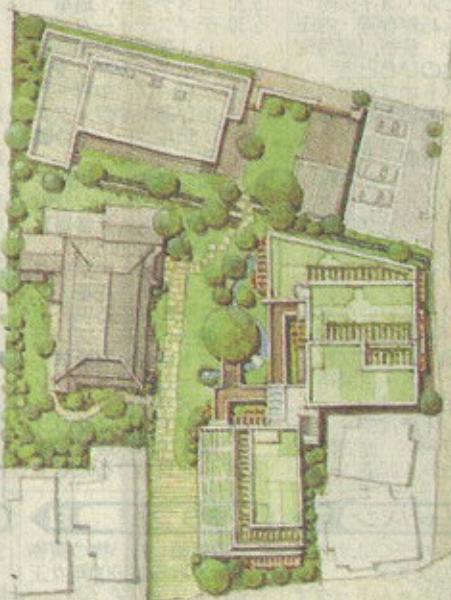
○740



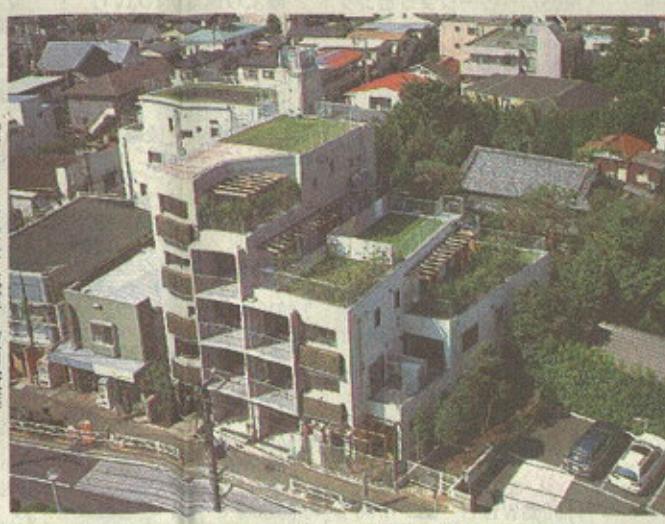
ベースに、「個人のプライバシー」と「コミュニティー」のそれぞれの良さを両立させる、新しい価値を創りだすことだと思います。

こうした価値づくりを追求した二年越しのプロジェクトがようやく先月完成しました。世田谷(東京都)の真ん中に誕生した五階建て、十五世帯の住宅で、「櫻ハウス」では、自立した個人が同じ価値観に基づく共有的利益を実現するため、合理的な選択肢と

一緒に、構築されました。これら都市環境を改善するためには、こうした合理的な考え方に基づくコミュニティーの再構築が重要になっていくと思います。



「櫻ハウス」の全体イメージ(イラスト・堤野仁史)



「櫻ハウス」全景(撮影・坂口裕康)